

なのはな通信

第10号 2003.7



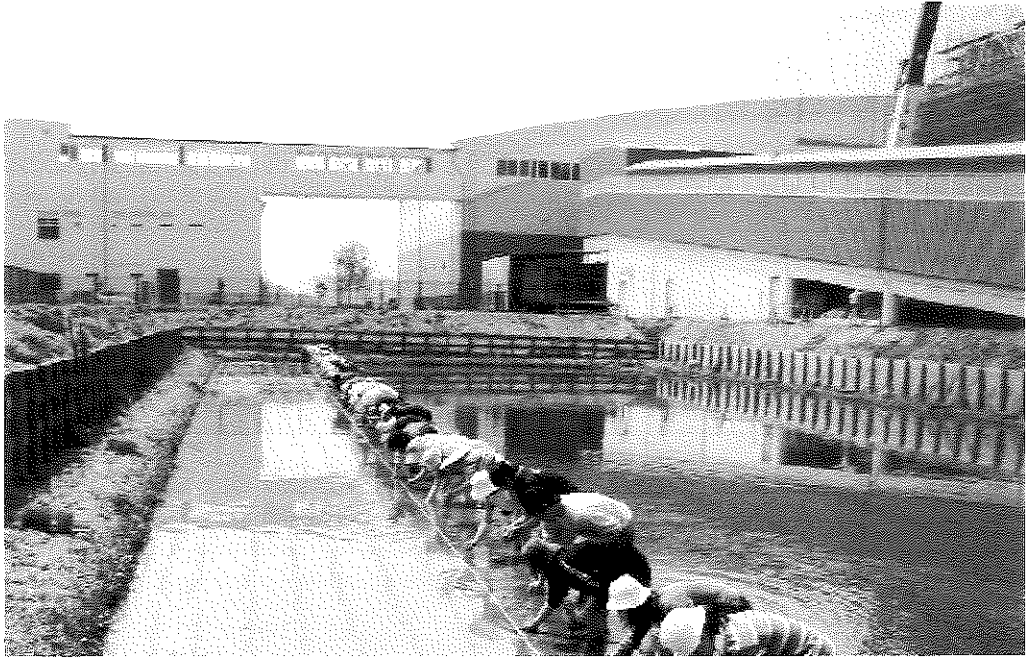
編集・発行

勤医会東葛看護専門学校

〒270-0174 千葉県流山市下花輪409

TEL 04-7158-9955 FAX 04-7159-7055

発行責任者 久保 知代恵



2科1年生の田植え風景

(うしろは建設中のコミ焼却場)

看護まんだらを織る

— 去年から今年へ —

校長 三上 満

昨年十二月におこなわれた両科の「総合発表」の感動を忘れることはできない。患者さんとの一期一会の出会い、その中で味わった看護の深さ・厳しさ・全身でみつけた新しい気づき、回復してゆく患者さんと共に分ち合った喜び、医療が切りきざまれてゆく政治への怒りなどなど、それはさながら「まんだら」の如き世界であった。

Sさんは、四週間の看護実践をふりかえって、患者理解やケアに、狭さのあつたことに気づく。それを広げ総合的にとらえて働きかけられる看護師になりたいとの願いを、「視点から視野へ広げていきたい」と表現した。

Tさんは、患者さんに対して「〇〇しましょう」という紋切り型の働きかけしかなかったことに気づき「〇〇と〇〇とどちらがいいですか」と問いかげに変化をつけることで、応答を豊かにすることができた。

Y君は、看護の個性性ということを全身で知るなかで「医学的には最善と思われることが一人一人の患者さんにとって必ずしも最善とは言えない」ということに気づく。つまり最善はマニュアルで見つけるのではなく、あくまで個別の患者に即して見出していくということだ。

Sさんは、苛立つて怒鳴る患者さんに接する中で、その行為が先ゆきが見えない不安からくる行為であるとの理解を深め、そういう理解の深まりを「認知から認識へ」というすばらしい(哲学的な)言葉で表現した。

Hさんは、発表の終りに「今の私は、入学した時の私より何万倍も好きです」と涙ながらに語り、報告をしめくくった。

二科のAさんたちのグループは、最善の医療をしようとする良心に立ちほだかる診療報酬の矛盾を解きあかし、「コスト意識」といったものがはびこる原因を怒りをこめて告発した。そして「私たちはそんな看護師にはなりたくない」と結んだ。

この人たちも卒業し、それぞれ臨床に巣立っていった。代わりにフレッシュな一年生たちを迎え、学校はまた新しい学びへ歩み始めている。

2003年度教育活動

主な学校行事、教育活動は次のとおりです。

2003年度教育活動（4月～7月）

	学校行事	1科1年	1科2年	1科3年	2科1年	2科2年
4月	7日 始業 9日 第9回入学式 1科40名 2科40名 25日 防災訓練	18～19日 合宿研修	14～17日 保育所実習 「生命活動」の学び	8～9日 地域フィールド 発表	17～18日 合宿研修	
5月		7～8日 病院探検		6～7/2日 老年・在宅看護論実習	生命活動の学び 2日 田植え	6～7/25日 各論前期実習
6月	6日 第9回体育祭 24日 第1回運営委員会		9～27日 成人Ⅰ実習			
7月	4日 千葉県下看護 学校体育大会 28日～8/24日 夏期休暇 31日～8/1日 臨床指導者研修会	8～10日 基礎Ⅰ実習 24日 基礎Ⅰ実習 発表	17～23日 成人Ⅰ実習 ゼミナール	14日 老年ゼミナール 15日 在宅ゼミナール 国試補講	16～17日 地域フィールド 18日 地域フィールド 発表	 国試補講

今後の予定（8月～3月）

	学校行事	1科1年	1科2年	1科3年	2科1年	2科2年
8月	25日 始業 29日 平和学習会 総合防災訓練 30日 ときめき学校探検					
9月	12日 第6回 自治会総会		2～12/12日 成人Ⅱ(外科)・母性・ 小児・精神実習	8日 社会保障ゼミナール 12日 栗生桑泉園 (社会保障)見学	10日 生命活動発表会 17～10/8日 在宅フィールド	16～19日 研修旅行 29日 研修旅行発表会
10月	4日～5日 東葛祭 秋の学生健診 28日 第2回運営委員会 同窓会総会	9～17日 基礎Ⅱ実習 30～31日 基礎Ⅱ実習 ゼミナール		7～11日 研修旅行 24日 研修旅行発表		7～31日 各論後期実習
11月	19日 両科推薦入試 27日 県下看護学生 研究発表会 29日 第9回 キャビンゲレモニー	14～15日 合宿研修 29日 キャビンゲレモニー		10/31～11/28日 総合実習 27日 千葉県下 研究発表会	10日 在宅フィールド 発表会 10～12/5日 基礎実習	1～12/11日 総合実習 27日 千葉県下 研究発表会
12月	国試願書提出 6日 ときめき学校探検 22～1/5日 冬季休暇		18～19日 成人Ⅱ(外科)・精神 ゼミナール	15～16日 総合実習 発表会		10～11日 総合実習発表会 15～18日 総合試験
1月	6日 始業 23～24日 1科Ⅰ期入学試験	19～2/5日 基礎Ⅲ実習	7～8日 小児・母性ゼミナール 15日 地域フィールド 事前訪問	国試補講	基礎実習 ゼミナール	国試補講
2月	6～7日 2科入学試験 22日 第93回 看護師国家試験 24日 第3回運営委員会 27日 1科Ⅱ期入学試験	23～26日 基礎Ⅲ実習 ゼミナール	16～18日 地域フィールド	22日 看護師 国家試験		22日 看護師 国家試験
3月	6日 第8回卒業式 25日 国試合格発表 15日～春季休暇	8日 学年末試験 10～11日 技術ゼミ	8日 学年末試験 10～11日 技術ゼミ			

看護1科1年生(9期生)

ときめき 病院探検

一科九期生は、〇三年五月七日・八日の二日間にわたって『問題意識を持つて集団的に看護を学ぶ出発点とすること』を目的に、ときめき病院探検を行いました。

病院探検は①東葛病院をくまなく見てくる②患者さんへのインタビュ③看護師さんへのインタビュ④シーツ交換の実践の四つの柱からなり、学生はグループ内で、インタビュ内容を検討して本番に備えました。当日は、病院で働く職員が、患者さんのことを第一に考えて働いていることを知り、看護師さんの話から、働くことの厳しさを教えられ、患者さんへのインタビュでは、患者さんの人生に触れ、涙する場面もありました。また、散々練習したシーツ交換も、本番では頭が真っ白に

なり、体が動かず、実習の厳しさの一端にも触れてきました。

学生は二日間の体験をレポートにまとめ、互いの学びを発表しました。ある学生は『患者さんの姿に学びながら、経験をつみ重ねるたびに成長していきける看護師になりたい』と結んでいます。

イキイキと働く看護師の姿に憧れ、未熟な自分たちに気づき、そんな自分を支え、励ましてくれる患者さんの存在や、共に学ぶ仲間存在に気づくことができた実りある実習となりました。

(1科1年担任 小淵 尚子)



看護2科1年生(9期生)

田植えは 祭りの 授業です

看護第2科では、昨年から「生命活動の探求」の一環として「田植え」に取り組んでいます。

今年も、五月二日晴天のもと、2科1年生四十名と教員が田植えにチャレンジしました。

女性軍は日焼けをおそれ完全武装、足元は田植え靴のいで立ちで、誰が誰だか見分けがつきません。

ゴミ問題と環境を考える会の皆さんの指導のもと、全員一列に並んで田植えの開始です。しかし、田んぼのマルツとした感触やカエルの出現にワーワーキャーキャーと悲鳴の連続。あまりの楽しそうな光景に、三上校長もステテコ姿で飛び入り参加。2時間をかけ今年の田植えも無事終了しました。

「中腰の姿勢はつらかったけど、



自分たちで植えた田んぼをみると秋までしっかり育つてくれと願った」学生の感想です。秋の収穫祭が楽しみです。

田んぼの隣は建設中のゴミ焼却場。この田んぼは焼却場建設に反対してきた農家の皆さんが「せめてもの抵抗」にと提供してくださったものです。

田植えは、学生たちにとって生命と環境そして農業を学ぶ素晴らしいフィールドになっています。

(看護第2科教員 机 みどり)

看護1科3年生
(7期生)

ダイナミック
臨地実習

「老年看護学実習」
「在宅看護論実習」

1科3年生は、五月六日から七月二日まで約二ヶ月間、「老年」「在宅」実習を行ないました。

みさと協立病院の『療養型病棟』で四週間、老人保健施設「まきはりの郷」特別養護老人ホーム「高師やすらぎの郷」「訪問看護ステーション」「在宅介護支援事業所」グループホーム「わたしの家」、自宅で療養生活をされている方を、受け持たせて頂き、看護実践の実習をするなど豊富な体験をしました。

各施設の特徴と法的な位置づけ、利用されている制度、療養環境、ご家族のご苦労、住みなれた地域でくらし続けたい願いを応援する実践などを学びました。

療養型病棟では夜勤体験をしました。現在の職員の配置では、ナース



コールがなっていない現状、患者さんの安全をどうして守るのか、二十四時間を通しての患者さんが見えてきた等、患者さんの人権や看護労働の視点からも大きな学びとなりました。

身体拘束を廃止している「まきはりの郷」では、利用者さんの人格、人権を守るため四点柵、抑制は行わない、行動を抑制するとかえって不安になってしまうこと、訪問看護ステーションでは、経験や知識が半端ではできない、生活に沿った実践が求められるので、知識や生活を基に応用させる実践が求められます。そして厳しい現状でも、看護師さんは、利用者さんと信頼、相互関係を築き活き活きと働いていたなどの学びをさせて頂きました。

1科3年生は、この実習を基に、制度の矛盾もとらえ、夏休みあけに日本の社会保障制度を学び、考える社会保障ゼミナールを開催します。

(1科3年担当
深谷 京子、江島 典子)

看護2科2年生
(8期生)

健康学習会

2科8期生は、いま各論前期実習(五ヶ月、外科、母性、小児、精神、感覚器)真つ最中である。生命活動のまなびを土台に、臨地実習毎に「健康学習会」を行なっている。「健康学習会」は、患者さんの自分の病気をもっと知りたい、健康に生きたいという願いに応えるために、いつでも、どこでも、だれにでも、やさしく説明できる力をつける学習の環境である。



小児、学童保育所では、梅雨空のなかでも、元気に遊んでいること、も達のバ

ワーに圧倒されてしまった。遊びに夢中で、手をあまり洗わない子どもに気付いた学生はテーマを「バイキンくんをやっつける」(手洗い)にした。「ゲーム大好きB君の一日」のシナリオと紙芝居、正確な手洗いの方法の図示、実演の構成で練習を重ね、緊張と不安の中で本番をむかえた。こどもに分かるように、話し合いを重ねた学生の一生懸命さは毎回感動的である。学生自身が「やっつてよかった、こどもってわかるんだ」とこども観を広げ、課題意識から主体的なまなびへの変化の瞬間でもある。



(担当教員 徳丸 美津子)

歓声響く体育祭

校内体育祭

久々に晴れ渡った暑い六月六日、校内体育祭は開催されました。

各クラスの実行委員会を中心に、忙しい日々の中でもみんなが楽しめる体育祭にしたいという気持ちの一つに体育祭のその日を迎えることができました。

校内体育祭は、みんなと交流を深める絶好のチャンスでもありました。例年通り1科、2科合わせて5クラスのクラスマッチでは、どのクラスも闘志を燃やす完全燃焼のゲーム展開が繰り広げられました。それだけにクラスが一つになつて、仲間同士の友情の和が固い鎖の和になつて広がりました。

それぞれ一得点を競う手に汗握るゲームでは「ワッー！」という大きな歓声が体育館いっぱいに響き渡りました。

体育祭はクラスを一つにするチ



ームワークが求められるだけに三年生のチームワークのよさがひときわ輝いてみえました。総合優勝は1科1年生、二位1科2年生、三位2科1年生でした。

県下体育祭では本校がどう総合力を発揮するか楽しみです。

(1科2年 川口 風)



県下体育大会

「やったね!初優勝」

七月四日、千葉県内の看護学校が集まり、第十五回県下体育大会が開催されました。県下の看護学生約千名が千葉原総合運動場につどい、競技種目や親睦種目に一日汗を流しました。

本校も、実習で忙しい二・三年生を含め、練習や応援団の結成など「今年絶対優勝するぞ」の意気込みで準備に取りくみました。

実は、東葛看護は参加校の中で唯一どの種目でも優勝したことのない学校です。このため、学生の応援にも熱が入りましたが、先生たちの応援は特にすさまじく、元気をいっばいもらうと同時にかなりの恥ずかしさ。

しかし、その甲斐あつて、男子バレーが初の優勝、女子バスケットボールとドッジボールは二位という快挙を成し遂げました。

六月の校内体育祭、そして今回の県下体育大会とおしてたくさんの人たちと協力したり交流することができました。

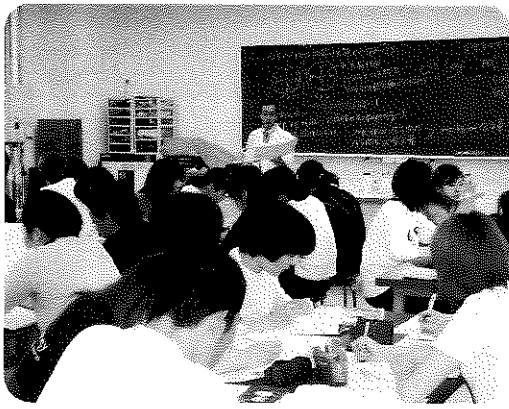
準備はとても大変でしたが、私自身にとっても印象深い思い出になりました。

(1科1年 蓮場都美子)

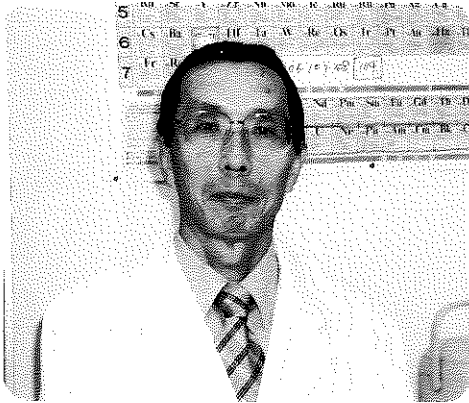
物質の本質に迫ろう

今年から化学の実験授業が始まりました。

昨年の夏の職員研修会の講師を受け持ったことがご縁で四月から1科と2科の一年生の化学の授業を担当させていただいています。幸いにして事務長さんはじめ先生方のご理解で実験器具や薬品を整えていただきましたので、高校の化学の実験授業はもとより大学の教養課程の基礎化学の実験は何とか実施できると思いますが。実験を通して「物質認識」と



「調べて書く」ことを大切にしました。実験授業を目指しています。限られた授業時間の中ではなかなか難しい面もありますが、少しでも楽しい実験授業を展開したいと思っています。看護学校で化学の実験室があり、実験授業を実施しているところはそんなにはないと思います。学生の皆さんの積極的な学ぶ態度にとっても助けられていますし、エネルギーもいただいています。毎時間のレポート課題



もとても意欲的に取り組んでいます。高校で化学を学んでいない方もいらつしやるようですが「学びあい」を大切に、助け合って学習してほしいと思います。この後の生化学、栄養学、生理学などの学習が少しでも円滑に進められるようにとの思いで進めています。

(化学担当講師 竹内 信治郎)

第十八回「賢治賞」

三上満校長受賞

この度、本校の三上校長が若手日報社の文学賞「賢治賞」を受賞することになりました。「みんなのほんとうの幸い」求めて苦悩し、実践した宮沢賢治の生涯と思想を、現代にひきよせて書いた「明日への銀河鉄道」が心の宮沢賢治」が受賞作に選ばれたのです。三上校長は、「暴力、報復の連鎖のつづく世界に、今こそ賢治を！の思いで書いた本ですが、それが認められて嬉しいかぎりです。これからも『みんなの幸い』のためにがんばりたいとの思いを新たにしています。」と語っています。

公開講座のお知らせ

臨床指導者研修会の一環である記念講演を今年も公開講座とします。

昨年は竹内信次郎先生をお招きし、化学の模擬授業に驚きと感動の大好評をいただきました。

今年は生命の不思議とすばらしさにせまります。

多くのみなさんにご参加下さいますようお願い致します。

日時 七月三十一日(木)

十三時三〇分～十五時

場所 当校講堂

テーマ 「生命の本質に迫ろう」

ー楽しく学ぶー

細胞の世界ー

講師 相馬融先生(高校教師)

学生自治会

私たち五期自治会は、皆さんが楽しい・安らげると思える学校になるよう様々な活動をしています。

全自治会員がクラスを越えて交流ができるように、この学校は楽しいと思ってもらえるように、自治会主催で第七回卒業生を送る会、九期生のための新入生歓迎会を開きました。会を開くにあたって自治会で話し合いをし、前日にはリハーサルを行い、当日、みんな大盛り上がりで、とても楽しそうな笑顔を見ることができました。

七月四日の県下体育大会では自治会から飲み物の差し入れをし、みんなが十分に力を発揮できるよう応援しました。

また、自治会員から学校・自治会への意見・要望を募り学校と話し合いを行い、たくさん意見・要望が受け入れられるように努めています。

今、喫煙所のことについて自治会と学校とで話し合いをしています。タバコは身体にとつてよくありません。値上げもしたことですし喫煙者の皆さん、これを期に禁煙してみませんか？健康についての学習会も進めてゆきます。

先日、有事法制について集会を

開き、全校で学びあいました。残念ながら、その集会の後すぐに有事法制は可決されましたが、平和の問題は大事なことです。この先も全校で考えていきたいと思えます。

皆さんのためにこれからも頑張りますので学生自治会をこれからもよろしくお願ひします。自治会室に気軽に遊びに来て下さい。自治会一同心よりお待ちしております。

自治会会長 利行理子

有事法案の廃案を

要求します

私たちの学校は、看護を志すものが学ぶ学校です。私たちは、生命へのいとおしみ、平和を愛し築こうとする心を何より大切な看護の基礎として、学び育てようとしてきました。だからこそ私たちの学校は、その教育理念の土台に「憲法・教育基本法を据える」と明記しているのです。

五月十五日、衆院本会議は有事法案を、ほとんどまともな審議ぬきで可決しました。この法案は、日本の自衛隊が米軍とともに、海外でも武力行使に及ぶことができ、さらに戦争のために、国民の権利を制限し、医療・交通などの手段を強制動員できるといふ、文字通りの「戦争法案」です。これは、私たちの理念である憲法にも教育基本法にも反するものであることは明白です。

私たちは日本が再び「戦争をする

国」になることを決して許せません。それは、生命をいとおしむ看護の心とあいられません。私たちは、有事法案の廃案を求めることを、全学の意志として表明するものです。

二〇〇三年五月十六日

全職員・学生自治会共同アピール

戦争反対を

訴え続ける

平和ゼミ

平和ゼミナールは今年、イラク戦争反対の集会やデモに積極的に参加してきました。三月二十日の開戦時には、国会前の座り込みなどもして、戦争反対を訴えてきました。

私は今年四月に入学し平和ゼミナールにはいりました。そして五月二十三日、生まれて初めての集会・デモに参加しました。

会場に到着した時、驚きと感動のあまり私は呆然としてしまいました。明治公園内ぎつりと人が集り、北から南まで様々な県の人達もこの日の為に東京にきていました。



平和を願い、そして有事法制反対の思いで、会場の人々が一つになつていて感じました。私は人間の力の大きさを感ずるとともに、私自身もすぐ胸が高鳴っていました。今まではデモをしている人達を周りから見ていただけだった私が、気がつくとも大声をあげコールしていました。デモをしていると、無関心に通り返る人・冷たい目でみている人もいましたが、途中からデモに参加したり、手を振って応援してくれる人の姿もありました。私はもつともつと多くの人にこの現状を知ってもらいたいと思っていました。そして、これまでも自分に社会のことに無知であった自分がすごく恥ずかしかった。

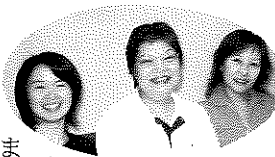
その後、三上先生による「イラク戦争と有事立法」という平和のための学習会がありました。戦争の歴史と合わせて「イラク戦争反対の世界世論の大きな進歩」について学び、戦争はおこつてしまっただけで、自分達が行ってきた反対の運動には大きな意味があることを確信しました。そしてこの思いを大切に仲間とともにもっともつと活動していきたいと思えます。

(平和ゼミナール代表

1科1年 小泉佳加)

よろしく
ごろうさま

新任・退任 教員紹介



この度、九年目の大きな人事移動がおこなわれました。本校の歴史を刻み卒業生が臨床でリーダーシップを発揮し、学校内外での指導が前進しています。山田先生は1科選任教員として経験を積まれ副教務主任として佐々木先生と交代しました。

松原先生は開設準備室から参加し2科1期生の担任を務め基礎を築いてこられました。昨年徳丸先生の研修期間副教務主任を担いこの度2科教務主任となりました。小澤副校長の退任に伴い久保前2科教務主任がその任務につきました。

看護教育情勢は小泉内閣の政治情勢も孕んで教育内容を規定する方向へすすんでいます。

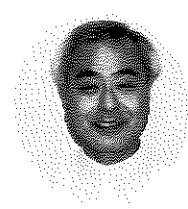
わたしたちは教育理念を一層発展していきけるよう力をあわせて日々新たに学んでいきます。

(2)科教務主任 松原 郁子
副校長 久保知代恵
1科副教務主任 山田かおる



みなさんお元気ですか。東葛看護在職中はお世話になりました。私が在職していた五年間に、約二〇〇人の学生を迎え、ほぼ同じ数の学生が巣立って行きました。学生の学びの発展には目を見張るものがあり、若者の柔らかい頭を羨ましく思ったものです。授業や学習を通して、病態の理解を深め、患者さんの生活史を伺い、頑張っている姿から、健康回復への願いを叶えたいと思う思いによるものでしょう。入学時(特に1科)看護の知識のほとんど無かった学生が、学びを重ね民主主義と平和を愛する看護師として育ってゆく様は、頼もしい限りでした。また自治会活動の援助を通して「看護学校補助金削減」に対し厚生労働省や千葉県への交渉、「ストップ有事法制」の取り組みなど学生の正義感とパワーに、沢山のエネルギーをもらいました。みなさんありがとうございます！

(前副校長) 小澤 清子



一九九八年より五年間、本校に勤務し本年三月に退任することになりました。

いま、開校以来の卒業生が首都圏を中心に各地の病院看護の現場で活躍するようになりました。学生と教職員のたゆみない学

校づくりへの積み重ねが、地域、患者さんに信頼される看護師を輩出してきたことを誇りに思っています。

なによりも、きびしい課程に挑戦する学生を支え学校の運営にご協力いただいた御父母のみなさまには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。



これからも新鮮な学生の視点を大切に折々の学校行事にかかわっていきたく思っております。

(前主事) 伊藤 淳

看護教員として十年。あつという間だった様な、そうでもないような。でも一区切りこの十年間という

時の中で、多くの人の力を得て、看護師として人間として二つの大きな学びをしたと思う。一つは「生命活動」の学習課題を学生とひもといていく中から、人体の二十四時間の絶え間ない営みやネットワークのすばらしさに驚嘆し感動を覚えた。二つ目は、「人は変化する」ということ。言い換えるなら成長するということ。殊更に青年の変化の凄さに圧倒された。どちらも判っている筈だった。しかし、「つもり」にすぎなかった。

この学びの確信が人間信頼を揺ぎなくしてくれる。あきらめない看護の追求に身を投じたい。当然平和の追求と両輪で。ありがとうございます。

(前1科副教務主任) 佐々木 幸子

編集後記

「第九十一回看護師国家試験」の厳しい結果を踏まえ、昨年「看護師国試に対するわが校の基本方針と対策」を発表しました。「第九十二回看護師国家試験」の結果はクラス一丸となった学習と教職員全員による指導の徹底によって卒業生を含めた合格率で、全国平均を上回り目標をほぼ達成しました。本校は基礎看護教育の範囲以内で合格を目指す方針を確認し、第九十三回国家試験にむけて日々の教育実践をおして基礎学力を向上させる課題を教員、臨床指導者とともに集団討議しあらたなスタートをきりました。

小泉内閣の「構造改革」で、国民の医療権のみならず生存権さえも奪いかねない実態が全国に広がっています。「有事法制」「イラク特措法」の強行により日本国憲法、教育基本法の「改悪」が狙われています。本校は国民の期待に応えうる平和で民主的な人格の形成者の育成を目指し前進していきます。

岩手日報社主催の第十八回岩手日報文学賞の賢治賞に三上満校長の「明日(あした)への銀河鉄道」が心の宮沢賢治「新日本出版社」が選ばれました。おめでとうございます。平和の世紀を拓いていくうえで「人びとのほんとうの幸い」を求め続けた賢治の世界観を現代に問い掛けています。

学校通信編集委員会
山田かおる 徳丸美津子 久保知代恵